



はーとふる エッセイ

富山市長 藤井裕久

No.45 「2025年に行くべき世界の52か所」

新年早々に大きなお年玉を頂いた。ニューヨーク・タイムズ社の「2025年に行くべき世界の52か所」に富山市が選ばれたのである。まったく寝耳に水の知らせであった。すぐに同社のホームページなどをチェックし、日本からは万国博覧会が開催される大阪市と本市が選定されたことを知った。「混雑を回避しながら文化的な感動とグルメが味わえる」点が評価されたとのことである。本市のような地方都市にスポットを当て、独自の取材でそこにしかない魅力を発見し選定いただいた同社に心から感謝を申し上げ、市民の皆さんと共に心から喜びあいたいと思う。

改めて評価をみると、本市は東京から新幹線で2時間あまり、大阪からも電車で3時間弱と、首都圏や関西圏からのアクセスが非常に良い。そこに住む市民は、家族のように自分を受け入れてくれる温かさがあるとのことである。「文化的な感動」という点では、隈研吾氏が設計を手がけたTOYAMAキラリ内の富山市ガラス美術館や、伝統行事として300年以上の歴史を誇る越中八尾おわら風の盆、「グルメ」としては、鉄道模型が走る喫茶店やおでん、和風カレーなど、オンリーワンの魅力を提供する隠れ家的スポットを紹介している。「混雑を回避しながら」とは、「すいている」ということだが、人が心のこもったおもてなしを提供する、あるいは心静かに芸術を鑑賞し文化や自然に向き合うためには丁度良い人と人との距離感があるということであろう。これもまた本市の魅力なのだと、良いふうに解釈している。

一方で、同社関係者は、「新幹線で北陸を訪れる外国

人観光客は、何故こんなに魅力のある富山を通過してみんな金沢へ行くのか？」と疑問を呈するとともに、本市は「能登半島地震の復興の一環で観光客を集めている。」と、富山市への期待を込めた評価もしてくれている。私たちは、この疑問と評価に真摯に向き合い、富山市の魅力発信に努めてゆかなければならない。つまり、大きな宿題を頂いたということである。

さて、今回の選定を機に特に欧米からの外国人観光客が急増することは、非常に有り難いことであるが、故にしっかりと備えたいと思うのである。言うまでもなく、富山には標高3,000m級の立山連峰から水深1,000mの富山湾まで高低差4,000mのダイナミックな地勢と大自然がある。立山山麓や有峰を含む市域の約7割が緑豊かな山林である。天湖森や牛岳エリアなど身近な自然と触れ合える場所がある。豊富な天然水や米をはじめとする農産品、地酒、呉羽梨や朝日すいか、池多や山田のリンゴなどの特産品がある。四季折々の海の幸、山の幸をふんだんに提供してくれるお店がある。伝統行事のみならず、チンドンコンクールや富山まつりなどの比較的新しい市民行事がある。富山駅周辺の賑わいづくりイベントや越中大手市場など、市民が主体となったまちづくりの取り組みも活発に展開されている。そして、何よりも心温かい人々がいる。

今こそ、市民一人一人が、日々の生活の中にある「わがまちの魅力」を再発見し、オール富山で発信して行くことが大切だと思う。そして、国内外の観光客に富山県や北陸に滞在していただき、ひいては能登半島や被災地の復興に繋がることを大いに期待する。



今月の 広報クイズ

豊かで美しい海を守り続けるため、市ではオイルフェンスの設置など、さまざまな〇〇ごみ対策に取り組んでいます。

〇に入る文字は？ 答「〇〇」

富山市公式LINEかはがきで回答してください(1人1通)。

LINEの場合

右の二次元コードから友だち追加をして、メニューから回答。



はがきの場合

答と郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号と「広報クイズ」と書いて、広報課(〒930-8510 新桜町7-38)へ。

締切日▶2月13日(必着) 賞品▶500円分の図書カード
当選発表▶賞品の発送で代えさせていただきます(抽選で5人)。

前月の答え 実践

前月の応募総数 540件(正解数537件)



とやま情報局

今月の
放送日 2月23日(祝)11:45~

放送局 KNB北日本放送(1ch)

テーマ「地域の身近な相談相手 民生委員・児童委員」

地域住民が安心して生活できるよう、地域の見守り活動や、住民の困り事や悩み事に対して、必要な情報提供や公的機関などへ取り次ぎを行う、民生委員・児童委員の取り組みを紹介します。

HP市ホームページ(No.1002571)